

将来世代
応援
企業賞

国立大学法人

岡山大学 (岡山県)

代表者: 学長 榎野 博史

所在地: 岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号

業種: 教育・学習支援業

事業内容: 教育・研究・医療・人材育成・地域連携

設立年: 昭和24年(1949年)



従業員数 7,782 人: (男性 3,962 人, 女性 3,820 人)

URL: <http://www.okayama-u-diversity.jp/>

企業の取り組み状況等

背景 平成21年1月に、性別、国籍、年齢、障がい等に関する教職員の多様性を高め、ダイバーシティ文化の醸成に努めることを目的として「ダイバーシティ推進本部」を設置し、全国に先駆けて導入した「ウーマン・テニユア・トラック(WTT)制」による女性教員の雇用拡大など直接的な取組を進めるほか、男女ともに働きやすい職場環境の構築を目指して、「保育施設の充実」「研究支援員制度」「復職支援助成金制度」などによる教職員等のサポート体制の充実を図っています。

【次世代育成支援、ワーク・ライフ・バランス】

- ◆乳幼児保育施設「なかよし園」を整備したほか、病児・病後児保育施設「ますかっと病児保育ルーム」及び学童保育施設「かいのき児童クラブ」を開設
- ◆学内の専門家等が相談に応じたり、誰でも気軽に話ができる「わ(Work)ら(Life)ふ(Family)さ(Support)サロン」を週1回開催するなど、職員のワークライフとファミリーを支援する体制を構築
- ◆育児支援制度一覧を掲載したリーフレットや「パパの育児エッセイ集」を発行
- ◆育児期の教職員間のネットワーク作りを目的に「Family Meeting」を開催するほか、教職員の家族が職場訪問する「家族の日」を定期的で開催

【女性研究者支援、ライフイベント(出産・育児・介護)支援】

- ◆女性限定の国際公募による、優秀な若手女性研究者の雇用促進・育成を目的としたWTT制を全国に先駆けて実施したほか、前倒して優秀な女性教員を上位職に積極登用する特別昇任制度を創設
- ◆ライフイベントを理由として、研究時間の確保が困難な研究者を対象に研究支援員を配置するほか、復職者のリスタートアップ研究費を助成する制度を構築
- ◆業績評価・人事評価においてライフイベントが不利にならないよう配慮する制度を運用

【地域との連携】

- ◆岡山経済同友会、岡山県とともに「ダイバーシティ推進実行委員会おかやま」を設立し、シンポジウムを開催するなど、連携して次世代育成のための意識を地域に根付かせる活動を展開
- ◆岡山県や県医師会等と連携し、出産及び育児等で離職後の再就業に不安を抱える女性医師等を対象とした復職支援プロジェクトとして「MUSCATプロジェクト」を実施
- ◆女子中学生を対象に、最先端の科学の研究内容に触れ、自然科学に対する興味を持ってもらうことを目的として実験教室や模擬授業を実施する「サイエンストーク&トライアル」を開催



Family Meeting

成果 ◆WTT教員23人(平成22~29年度)を採用した結果、女性研究者の少ない分野での女性研究者の増加を実現
◆女性研究者に占めるテニユア職が平成20年度12.5%から平成29年度16.4%に向上
◆平成22年度と平成27年度に「くるみんマーク」を取得したほか、岡山県から「岡山県男女共同参画社会づくり表彰(事業者)岡山県知事賞」(平成20年度)、「おかやま子育て応援宣言企業岡山県知事賞」(平成24年度)を受賞

応援しています！

ワークライフバランスが充実している職場では、個人とその家族の安心感や幸福感が高まるだけではなく、働くことへのモチベーションも高まって、柔軟性のある考えが生まれやすいといわれています。さらに、子育ては子どもたちのユニークで多様な考えを受け入れ、愛情を持ってそれに対処し、その行く末の幸せを願うものであり、まさに教育の原点であると思います。その意味では、子育ては直接的であれ間接的であれ教育に携わる私たち教職員にとっては、活力の源になることはもちろん、自らの能力を高める大きな機会になると思います。

育児休業制度を活用しました！

一番良かったと思う点は、妻とゆっくり育児について話すことができたことだと思います。里帰り出産後の実家での様子や、『この時、実はこう思っていたよ。』と言われて、あらためて気づかされることも多かったです。なかなか、余裕をもって親子と親同士の時間をつくることができていなかったと痛感しました。そんな時間がとれた育児休業の制度、これからお子さんが誕生する方は、積極的に活用してみてください。(岡山大学男性職員)

ひとこと

